

1 単元名 古代国家の歩みと東アジアの世界

2 単元の目標

- 天皇・貴族の政治が展開され、国際的な要素をもった文化が後に国風化したことに関心をもち、意欲的に学ぼうとしている。  
(社会的事象への関心・意欲・態度)
- 聖徳太子の政治から大化の改新を経て確立した律令国家がめざしていた政治とその特色、及び仏教の影響や文化を担った人々などに着目し、古代の日本で栄えた文化の特色について考察することができる。  
(社会的な思考・判断・表現)
- 天皇・貴族の政治の展開についての様々な資料を読み取ったり、法隆寺や正倉院の宝物、仮名文字など代表的な事例について、様々な資料から、古代の文化の特色を読み取ったりできる。  
(資料活用の技能)
- 古代日本の律令国家確立の過程と、天皇・貴族の政治の展開、及び大陸の文化を取り入れた文化が都を中心に栄え、日本的な文化が成立したことについて、具体的事例を通して理解し、知識を身に付けることができる。  
(社会的事象についての知識・理解)

3 単元について

(1) 教材観

本単元は、古代の国家における律令国家の確立に至るまでの過程について、摂関政治などを基に、東アジアの文化や制度を積極的に取り入れながら国家の仕組みが整えられ、その後、天皇や貴族による政治が展開したことについて理解することをねらいとする。

聖徳太子の政治や大化の改新は、義務教育学校前期課程での既習内容である。後期課程ではそれらの学習内容をさらに深め、新羅の外圧を受けた大和朝廷の危機的状況や、皇位継承をめぐる皇室と豪族との対立を背景としてとらえさせ、蘇我氏が渡来人と協力して仏教や外来文化を取り入れたり、皇室と姻戚関係を結んだりして勢力を拡大していく過程や、政府の諸政策とを関連付けて考察させたい。

また、本単元では、東アジア世界の地図、諸政策の資料、系図、建造物の写真、年表等の読み取りや関連付けなど、各種資料を活用することを通して、社会的事象について多面的・多角的に考察し、論理的に表現する力を育成したい。

(2) 生徒の実態 (\*人)

(平成\*年\*月\*日、調査人数\*人)

調査内容	回答類型	人数
1 二つの資料から、事象を関連付けて論理的に表現できるか。 (思考・判断・表現) 『蘇我氏の勢力について、二つの資料を関連させて、わかりやすく説明しなさい。』	・二つの資料を自分なりに読み取り、それらを関連させて捉え直し、蘇我氏の勢力の有り様を具体的に説明している。	*
	・蘇我氏の勢力について、二つの資料のそれぞれから読み取ったことから別々の根拠として説明している。	*
	・蘇我氏の勢力について、一つの資料を根拠にして説明している。	*
	・蘇我氏の勢力は強いという結論のみ記述している。	*
	・記述無し。	*
2 聖徳太子の政治政策の目的について知識があるか。 (知識・理解) 『聖徳太子はなぜ「十七条の憲法」、「冠位十二階」、「遣隋使」を行ったか、理由を答えなさい。』	<ul style="list-style-type: none"> <li>・天皇中心の国づくりをするため。</li> <li>・聖徳太子の思い通りにするため。自分の力を見せつけたいため。</li> <li>・争いをなくすため。(平和な国づくりのため)</li> <li>・国の発展のため。(国内を一つにまとめるため)(国をよくするため)(みんなを平等にするため)(ルールをつくって国を安定させるため)(国を豊かにするため)(経済を発展させるため)(日本らしい文化をつくるため)</li> <li>・隋との関わりを深めるため。隋を後ろ盾にするため。</li> <li>・世界の仲間入りをするため。</li> </ul>	複数回答

アンケート1の結果から、諸事象を空間的、時間的な視野から考察できる生徒がいるものの、事象同士を比較したり関連付けたりする思考スキルに課題があるといえる。また、結論は出しているが、資料を基にした根拠を見いだせない生徒がいる。アンケート2の結果から、政治政策の目的について、「権力」、「法律」、「経済」、「国交」、「文化」、「世界情勢」といった視点からまとめている生徒が多いが、これらの視点を意図的に用いて説明できたのは\*人のみであった。

以上のことから、資料から読み取った社会的事象を比較したり関連付けたりして新たなとらえかたができるように、社会的な見方や考え方を明確に学び、意図的効果的に使えるように授業を構成する必要がある。

(3) 指導観

社会的な見方や考え方を学び、それを生かして社会的事象を比較・分類したり、関連付けたりして考察できるように、社会的な見方や考え方を子どもたちと整理する。具体的視点として、時期、年代など時系列に関わる視点、展開、変化、継続など諸事象の推移に関わる視点、類似、差異、特色など諸事象の比較に関わる視点、背景、原因、結果、影響など事象相互のつながりに関わる視点などについて、単元のはじめや途中、単元のおわりの歴史を大観する場面で明示的に学んでいく。

また、深い学びの実現のために、「社会的な見方・考え方」を用いた考察、構想や、説明、議論等の学習活動を組み込み、課題解決学習ができるように、追究の視点を生かした課題設定を工夫する。さらに、各種資料等を基にした多面的・多角的な考察、社会に見られる課題の解決に向けた広い視野からの構想(選択・判断)、論理的な説明、合意形成を視野に入れた議論を重視するグループ学習を展開する。

本時では、ジグソー学習を取り入れ、多様な資料を丁寧に分析、解釈するとともに、他者のとらえ方や考え方を生かして課題解決できるようにする。さらに、ルーブリック評価を取り入れることで評価の観点を子どもたちと共有しておくことで、子ども自身が、学習内容にとどまらず、学習の仕方や付けたい力を意識して学んだり、振り返りの場面で自分や友達をモニタリングしたりできるようにする。

4 学習計画（9時間扱い）

第一次 古代国家の歩みと東アジアの世界（9時間）

次	時	主な学習活動	関	思	技	知
一	1	聖徳太子の政治改革を理解し、文化の特徴を仏教の伝来と関連付けてとらえる。（本時）	○	◎		
	2	大化の改新から律令国家の確立に至るまでの過程を理解し、7世紀の東アジアの動きを、国内の情勢と関連付けてとらえる。			○	◎
	3	律令の制定、都の造営、地方への支配の広がりなどを通して、古代国家の特色についてとらえ、律令制度の内容を通して、古代国家の仕組みを理解する。			○	◎
	4	奈良時代の人々の生活の実態について理解し、律令制度の基盤である公地・公民制が崩れ始めた理由を考える。		◎		○
	5	代表的な文化財を通して、天平文化の特色を理解し、遣唐使の派遣が果たした役割について考える。		◎		○
	6	平安遷都の理由・意義や、平安時代の政治の特色について理解し、平安時代の新しい仏教の特色について理解する。			○	◎
	7	藤原氏が行った摂関政治の特色について理解する。代表的な事例を通して、国風化した文化の特色を理解する。			○	◎
	8	神話に関心を持ち、現在にも伝えられていることや、神話が神楽をはじめとした各地の伝統芸能に取り入れられ、受け継がれていることなどについて話し合う。	○	◎		
	9	学習した内容を活用してこの時代を大観し表現する活動を通して、時代の特色をとらえる。	○			◎

5 本時の学習

(1) 目標

聖徳太子の政治改革の目的について資料を関連付けて多面的・多角的に考察し、論理的に表現している。

(2) 準備物

電子黒板、ホワイトボード、ワークシート、ループリック

(3) 展開（9時間扱いの中の1時間目）

主な学習活動	教師の手立て				
<p>1 本時の学習課題をつかむ。（一斉）</p> <p>聖徳太子は、なぜ様々な政治改革を行ったのだろうか。</p> <p>「法律」、「外交」、「貿易」、「文化」の視点から資料を根拠に考えよう</p>	<p>教師の手立て</p> <p>指導上の留意点 ☆論理的思考力育成の手立て</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>既習事項を想起させ、本時への方向付けを図る。</li> <li>☆ループリックの視点を示し、めざす姿を全体で共有することで、本時のねらいを明確にする。</li> <li>政治改革の視点として「法律」、「外交」、「貿易」、「文化」などの側面を生徒から出させ、学習内容についてのねらいを共有する。出ない場合や足りない視点については教師から提案する。</li> </ul>				
<p>2 二つの資料を基にして考える。（グループ）</p> <p>「隋の統一の様子」「法隆寺の資料」「豪族の分布図」「皇室と豪族の関係系図」「冠位十二階の制度」「十七条の憲法」「釈迦三尊像」「中国竜門の石仏」</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>各グループで自分たちの主張の根拠となる資料を3つ選択し、その資料を基にして太子のねらいや政治改革に至る背景などについて話し合うようにする。</li> <li>グループで出した結論とその根拠を、他グループの人にわかりやすく説明できるように準備するように、あらかじめ話しておく。</li> <li>ワークシートに大切なことをメモしながら話を聞くようにする。</li> </ul>				
<p>3 ジグソー学習を行う。（グループ）</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>自分たちで考えたり、聞いたりしたことから、聖徳太子の政治改革の背景とねらいをまとめる。</li> </ul>				
<p>4 課題に対する結論をまとめる。（個人）</p>					
<table border="1"> <thead> <tr> <th>期待する生徒の記述・発言例(評価基準)</th> <th>評価規準</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>聖徳太子は、勢力争いをしていた豪族をおさえるために、天皇と姻戚関係にあった蘇我氏の力を借りて、天皇中心の国づくりを目指した。海外では国同士の攻防が続いていたため、他国に負けない政治的・経済的・文化的に優れた国づくりが必要であった。</td> <td>各種資料から社会的事象を比較したり関連付けたりして多面的に考察し、聖徳太子の諸政策の背景とねらいを論理的に説明している。（ワークシート）</td> </tr> </tbody> </table>	期待する生徒の記述・発言例(評価基準)	評価規準	聖徳太子は、勢力争いをしていた豪族をおさえるために、天皇と姻戚関係にあった蘇我氏の力を借りて、天皇中心の国づくりを目指した。海外では国同士の攻防が続いていたため、他国に負けない政治的・経済的・文化的に優れた国づくりが必要であった。	各種資料から社会的事象を比較したり関連付けたりして多面的に考察し、聖徳太子の諸政策の背景とねらいを論理的に説明している。（ワークシート）	
期待する生徒の記述・発言例(評価基準)	評価規準				
聖徳太子は、勢力争いをしていた豪族をおさえるために、天皇と姻戚関係にあった蘇我氏の力を借りて、天皇中心の国づくりを目指した。海外では国同士の攻防が続いていたため、他国に負けない政治的・経済的・文化的に優れた国づくりが必要であった。	各種資料から社会的事象を比較したり関連付けたりして多面的に考察し、聖徳太子の諸政策の背景とねらいを論理的に説明している。（ワークシート）				
<p>5 本時を振り返る。（個人）</p>	<p>☆どのような見方や考え方が、結論を導くのに役立ったかという視点で振り返ることで、新しい考えを導出する際の思考スキルを生徒自身が認識できるようにする。</p>				